

第3章 前期計画5年間に集中して取り組んだ施策の振り返り

1 学校教育の充実

子どもたちの人格の完成を目指し、知・徳・体の調和のとれた教育の推進と、教育環境づくりに努めます。

(1) 学力の向上と個性を育む教育の推進

① 学力向上推進事業

【成果】

児童生徒一人一人の基礎学力の定着と確かな学力の向上を目指すために、各学校で、国・県が実施した学力調査等を踏まえた学力向上プランを作成し、その取組を推進しました。また、学校訪問や校内研修等とおして、⁹⁾教職員の指導力向上を図りました。

【課題】

学校の実態に応じた学力向上の支援や小・中・高の連携を重視した系統的な指導の充実を図る必要があります。

② 教職員資質向上研修事業

【成果】

毎年、企業のリーダーや各分野の専門家等を招聘した教育講演会や特別支援教育などの各種研修会を開催し、教職員の資質向上を図りました。

【課題】

学力向上や、いじめ・不登校問題等の生徒指導などについては、研究協力校を指定し、外部講師を積極的に活用した取組を推進する必要があります。

③ 学力・学習状況調査事業

【成果】

管理職研修会や学校訪問などの機会に、各学校で実施した諸検査の分析及び今後の対策の作成を徹底し、実践するよう指導しました。

【課題】

学校や個人の課題を明確にした指導の充実を図るために実施する諸検査については、検査の種類や内容等を検討する必要があります。

④ 霧島市小・中学校音楽のつどい開催事業

【成果】

小・中学校の児童生徒が日ごろの音楽学習の成果を発表したり、一流の演奏家の演奏を鑑賞したりする「音楽のつどい」を霧島国際音楽ホール「みやまコンセール」で実施しました。

【課題】

より多くの児童生徒が「みやまコンセール」で演奏・鑑賞する体験ができるようにしていく必要があります。

⑤ 小学校外国語活動・国際理解教育推進事業

【成果】

外国語活動支援員が担任とティーム・ティーチングを行い、それぞれのよさを生かした楽しい授業を展開することを通して、英語に親しみ、外国の生活や文化に対する興味・関心を高めるとともに、コミュニケーション能力の素地の育成を図ることができました。

【課題】

今後は、外国語活動支援員等を活用した、担任の指導力や英語力の向上を図ることと、小学校5・6年生の教科化に向けての対策を研究する必要があります。

⑥ 英語教育・国際理解教育推進事業

【成果】

10) 外国語指導助手（ALT）と日本人英語教師がティーム・ティーチングを行い、学んだ表現を活用する活動を通して、生徒の英語学習に対する関心や意欲を高めるとともに、実践的コミュニケーション能力の育成を図ることができました。

【課題】

今後は、教育活動の中で、より効果的なALTの活用方法を模索する必要があります。また、小学校5・6年生の教科化を受けた中学校における指導のあり方について研究する必要があります。

⑦ キャリア教育支援事業

【成果】

各中学校、国分中央高等学校の生徒が、各種事業所で数日間の職場体験学習を通して、学校では体験できない様々な活動に挑戦し、望ましい勤労観・職業観等を身に付けさせるきっかけをつくることができました。

【課題】

「社会を生き抜く力」を育成するために、立志式や立志講演会、職業人に学ぶ会等の外部人材を活用した取組やボランティア活動等を継続し、夢や志を持たせる必要があります。

⑧ 国分中央高等学校学科再編事業

【成果】

平成23年度に国分中央高等学校において新設学科「ビジネス情報科・スポーツ健康科」を開設し、「園芸工学科・生活文化科・ビジネス情報科・スポーツ健康科」の4学科に再編したことにより、県内外から優秀な人材が入学したことや素晴らしい指導者を迎えたことなどから部活動等が活発化し、九州大会や全国大会への出場が増え、中でも女子柔道において、国際大会で日本代表として活躍したほか、ビジネス情報科が楽天IT学校トラベル部門で2年連続最優秀賞を受賞するなど文武ともに学校は活性化してきました。

【課題】

部活動等において、さらに全国大会等で生徒が活躍するためには、最新のスポーツ機器等の整備をはじめ、現在手狭となっている体育館の解消を図るための新たな体育館建設など、教育環境の充実を図る必要があります。

※ 「学力の向上と個性を育む教育の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
小学校5年生の県「基礎・基本」定着度調査結果	72.2%	66.9%	71.7%	74.6%	69.5%	80.0%
中学校1年生の県「基礎・基本」定着度調査結果	66.8%	66.5%	68.8%	69.2%	67.6%	70.0%
中学校2年生の県「基礎・基本」定着度調査結果	61.3%	65.1%	64.3%	66.0%	63.5%	70.0%
指標の算出方法	毎年実施する県「基礎・基本」定着度調査の結果の市平均通過率を基に算出 11)					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>小学校5年生、中学校1年生、中学校2年生の県「基礎・基本」定着度調査結果については、平成24年度までは年々向上している傾向にありましたが、平成25年度は減少し、目標値に達しませんでした。</p> <p>その要因として、各学校において自校の課題を踏まえた学力向上の取組が計画的に推進されたこと、中でも授業改善に向けての校内研修が着実になされていることが考えられます。</p> <p>今後、小・中学校の9年間のスパンの中で霧島市の子どもたちが確実に学力を身に付けることができるように、小学校と中学校が十分に連携を図った学力向上の取組がこれまで以上に充実するように改善していく必要があります。</p> <p>なお、平成25年度から、県の「基礎・基本」定着度調査の名称が鹿児島学習定着度調査となり、応用問題が入るなど出題内容等も変更されました。</p>						

(2) 豊かな心を育む教育の推進

① ふるさと達人支援プラン推進事業

【成果】

器楽指導や部活動等に外部指導者を招聘したり、水泳・太鼓・棒踊り・絵画・米作り指導等でその道の達人の教えを受けたりすることで、教育活動の充実を図りました。

【課題】

今後も、学校教育の活性化や将来の霧島を支える子どもたちへの文化の伝承の面から、一流の技術をもった講師からの指導機会を継続する必要があります。

② 特別支援教育支援員派遣事業

【成果】

各学校の実態やニーズを随時把握するとともに、年次的に学校数や時間、日数等を工夫しながら配置しています。

【課題】

発達障害を中心とする特別な教育的支援を要する児童が年々増加傾向にある中、まだまだ全ての要望には応えられていない現状があります。

③ 読書活動推進事業

【成果】

各学校は朝読書の時間を設定したり、「読書の日」を活用した取組や図書館の本の紹介を積極的に行ったりすることで、読書活動の推進に努めています。

【課題】

豊かな心の育成を図るために、家庭と連携した「きりしま親子 20 分間読書運動」の推進や市立図書館等と連携した取組の充実と、学校図書館の整備・充実に努める必要があります。

④ あいさつ運動推進事業

【成果】

児童会や生徒会活動の一環として「あいさつ運動」に取り組んだり、PTA活動の一環として正門や通学路等でのあいさつ運動を実施し、改善が見られました。

【課題】

中学校における「あいさつ運動」の取組や、地域と一体となった「あいさつ運動」の推進を更に図る必要があります。

⑤ 「一校一音（いちおと）自慢」運動推進事業

【成果】

各学校において、様々な機会をとらえて歌声の響く学校づくりに取り組みました。

【課題】

今後は、「音楽のつどい」開催事業との連携を図り、各学校の「一校一音自慢運動」の成果を発表するという位置付けのもと、広く発信していく必要があります。

⑥ 人権教育推進事業

【成果】

年2回の市教育委員会主催の研修会を実施したり、年3回の人権同和教育に関する研修会を全小・中学校で実施したりすることで教員の資質の向上や校内研修の充実を図りました。

【課題】

今後は、児童生徒が主体的に取り組む活動の充実と、児童生徒の心に届く計画的・継続的な取組を推進する必要があります。

⑦ 教育支援センター推進事業

【成果】

国分教育支援センターと隼人教育支援センターにそれぞれ2人の指導員を配置し、不登校（傾向）児童生徒への学習支援や相談活動を行ったり、保護者からの悩み相談に応じたりして、通所生の学校復帰を支援しました。

【課題】

今後は、不登校の初期状態の児童生徒への対応を重視していく必要があります。

⑧ 子どもサポート推進事業

【成果】

市内5中学校を拠点に指導員を配置し、不登校生等の学校との情報共有や、積極的な家庭訪問をとおして、児童生徒や保護者、教職員等の相談に応じ、生徒指導上の課題の未然防止や早期発見・早期解消に取り組みました。

【課題】

不登校生の出現率が増加傾向にあり、初期対応を重視した取組に力を入れていく必要があります。

※ 「豊かな心を育む教育の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
市立小・中学校、国分中央高校の不登校の児童生徒の出現率	1.08%	1.57%	0.93%	1.20%	1.20%	0.50%
指標の算出方法	市立小・中学校及び国分中央高等学校の児童生徒のうち、不登校による欠席（年間30日以上）をした児童生徒の割合を基に算出					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>市立小・中学校、国分中央高等学校の不登校の児童生徒の出現率は、1.20%と上昇傾向で、目標値から大きく離れております。</p> <p>その要因として、児童生徒の気持ちを理解し、その気持ちに寄り添う指導や初期対応の徹底が不十分であったことや、支援が必要な児童生徒に十分な時間をかけて対応することができなかったことが考えられます。</p> <p>今後、不登校が初期段階の児童生徒への積極的な支援を図るために、各種相談員等の効果を再検討し、実効性のある組織に改善していきます。「豊かな心を育む教育の推進」全体を網羅し、それをみとることができる成果指標に変更する必要があります。</p>						

(3) 体育・保健指導の充実

① 健康教育推進事業

【成果】

学校教育の根幹をなす教職員や児童生徒の健康管理を家庭と連携し、積極的に行いました。

【課題】

今後は、市と保健所等の関係各機関や医師会等を含む医療機関や外部団体と連携を図りながら、より一層の健康の増進を行う必要があります。

② 体力向上推進事業

【成果】

児童生徒を取り巻く環境が変化中、定期的に個人の運動能力を評価し、体力の向上を図りました。

また、毎年、記録会（水泳・陸上）を行い、技術・技能の向上を図り、基礎体力を日々錬成させることに努めました。

【課題】

今後は、より効果的に体力の向上を図るため児童生徒個々の能力を的確に把握し、それぞれに応じた指導が必要です。

※「体育・保健指導の充実」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
健康診断で要注意・要治療となった児童生徒の割合	4.0%	6.0%	3.0%	3.0%	4.0%	2.0%
指標の算出方法	市立小・中学校及び国分中央高等学校の児童生徒のうち、健康診断で要注意・要治療となった者の割合を基に算出					
体力運動能力調査結果における20mシャトルラン（持久力）の測定値 ¹²⁾ ₁₃₎	56.2回	59.6回	53.6回	56.9回	56.0回	62.7回
指標の算出方法	市立小・中学校の抽出校（小6校、中4校）及び国分中央高等学校の20mシャトルランの測定値（小5、中2、高2の平均値）を基に算出					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>健康診断で要注意・要治療となった児童生徒の割合は、減少傾向にあり、運動能力の標準的指標である20mシャトルラン（持久力）の測定値を維持している状態にあります。</p> <p>その要因として、児童生徒を取り巻く生活環境が変化中、健康管理については学校・家庭が健康に対してより意識を高め、生活スタイルを向上させたことが考えられ、また、20mシャトルランの測定値については、各校が心肺機能を高める特定の運動を継続的に行っていることが考えられます。</p> <p>今後は、学校・家庭及び関係各機関とより一層連携し、現在の取組を継続しつつ、更にランニング運動を増やすなど体力向上が図られるよう努める必要があります。</p>						

(4) 食育の推進

① 食育推進事業

【成果】

各学校と連携し、¹⁴⁾「早寝早起き朝ごはん」運動の推進に努め、地産地消については、地元生産者組織や地元物産館、地元農家からの直接調達等により、安心安全な食材の供給に努めました。

【課題】

食の指導については、保護者への啓発を更に推進していく必要があります。また、今後も地産地消を推進していくためには、生産者組織の拡大等検討していく必要があります。

② 学校給食施設整備事業

【成果】

平成23年8月に「霧島市学校給食運営審議会」で、(仮称)第一学校給食センター新設の答申がありましたが、一方では、議会や一部の保護者から給食施設の分散化や自校式を堅持すべきとの意見もあり、整備計画を見直し、現在の新たな整備方針に基づき、年次計画で施設整備を行うこととなりました。

【課題】

既存の給食施設についても、老朽化が進行しているため、計画的な整備を行っていく必要があります。

※「食育の推進」の達成状況

成果指標 (指標設定の考え方)	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
朝食の欠食率	2.0%	2.8%	2.7%	2.5%	2.8%	1%未満
指標の算出方法	市立小・中学校及び国分中央高等学校の児童生徒のうち、週3日以上朝食をとっていない児童生徒の割合を基に算出					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
朝食の欠食率は、2.8%と上昇傾向にあり、目標値達成はかなり厳しいものがあります。 その要因として、保護者の食に関する意識の低下が考えられます。今後、栄養教諭を中心とした食に関する指導を更に充実させ保護者の意識向上に努め、食事に対する重要性を定着させることにより、児童生徒の健康増進を図り、望ましい食習慣につなげていくことが必要です。						

(5) 特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進

① マイ・スクール・プランニング推進事業

【成果】

学校の自由な発想と創意工夫による体験活動や、霧島の自然や施設等を活用した特色ある教育活動を支援することができました。

【課題】

学校自慢につながる取組を充実させるためにも、学校の自由な発想を支援する体制づくりが必要です。

② 学校評価推進事業

【成果】

各学校の教育活動の充実を図るために、各学校では学校評議員を3～5名委嘱し、年3回学校の教育活動を説明するとともに、学校への意見を聞く機会を設け、よりよい学校経営に生かすことができました。

【課題】

学校評議員が児童生徒や教職員と交流する場を設定するなど学校経営の充実を図るための新たな取組が必要です。

※「特色ある教育活動と開かれた学校づくりの推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
学校・家庭・地域が連携した教育活動の達成率	89.0%	91.0%	93.9%	94.0%	94.0%	95.0%
指標の算出方法	市立小・中学校で行う、 <u>学校評価（自己評価、学校関係者評価等）</u> を基に算出 ¹⁵⁾					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>学校・家庭・地域が連携した教育活動の達成率は、94%と上昇傾向で、目標値に近づきつつあります。</p> <p>その要因として、地域の人材を活用した教育活動に取り組んだり、学校評議員に学校教育活動を理解してもらう場を設定したりすることで、学校・家庭・地域に一体感が育ちつつあることが考えられます。</p> <p>今後は、現在の取組を継続するとともに、家庭や地域の方々の意見を参考に、学校の活性化を図る取組を進める必要があります。</p>						

(6) 安全・安心な教育環境の推進

① 理科教育等設備整備事業

【成果】

平成22年度 小学校19校、中学校 6校、 3,042千円

平成23年度 小学校13校、中学校12校、20,718千円

平成24年度 小学校 6校、中学校 4校、 3,432千円

平成25年度 小学校30校、中学校13校、23,694千円

平成 25 年度に備品を整備した学校の割合は、小学校 85.7%、中学校 100%であり、多くの学校で毎年計画的に整備できています。

【課題】

充足率の低い学校から整備対象の教材・備品の要望が少なく、整備が進まない状況があるので、学校への情報提供や周知を更に図り、充足率の改善を図る必要があります。

② 国分中央高等学校就職支援員配置事業

【成果】

就職支援員を配置し、高校生に求められる望ましい職業観や勤労観の育成に努め、生徒の就職活動を支援し、平成 25 年度は卒業式までに就職率 100%を達成しました。

③ 小・中・高等学校耐震補強事業

【成果】

平成 23 年度までに、小中学校の校舎等については、全て耐震診断を終了し、補強工事が必要な建物については、補強工事を終了しました。国分中央高等学校についても、耐震診断は終了し、補強によって強度が確保できない校舎については、平成 25 年度に改築工事が終了しました。

④ 幼稚園、小・中学校・高等学校施設改修事業

【成果】

平成 22 年度から国分西小・国分小・国分南小・牧之原小と年次計画で大規模改造工事を実施し、グラウンド整備も、国分西小については終了しました。また、屋外便所の水洗化は随時行い、大規模改造工事に合わせて特別教室への扇風機の設置を行いました。

【課題】

今後も年次的に老朽化した学校施設の改修工事を行っていく必要があります。

※「安全・安心な教育環境の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
市立小・中学校校舎の耐震化率	84.0%	99.5%	100%	100%	100%	100%
国分中央高等学校校舎の耐震化率	10.0%	50.0%	80.0%	80.0%	80.0%	100%
指標の算出方法	耐震性がある建物棟数÷全棟数を基に算出					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>小・中学校の校舎等の耐震化率については、平成23年度に100%の目標値を達成しています。</p> <p>国分中央高等学校の校舎については、平成25年度までに耐震化率を80%達成しており、平成26年度には100%達成する予定です。</p>						

(7) 幼・小・中・高連携教育の推進

① 幼・小連携推進事業

【成果】

私立も含めた幼稚園教諭研修会や幼保小連携研修会を行いました。また、小学校教育の立場からも、入学期の指導の充実を目指して霧島市独自の「スタートカリキュラム(入学期の指導計画)」を作成し、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続に取り組みました。

【課題】

今後は、幼稚園においても幼稚園教育後期において、小学校教育への接続を考慮した保育計画を充実させていく必要があります。

② 中・高連携推進事業

【成果】

中学校・高等学校相互の授業をとおした研修会や校長の連絡協議会を実施してきました。

【課題】

今後は、中学校教員がこれまで以上に、普通科高校、専門高校の特色や進路指導等幅広く理解し、生徒の指導に生かしていくような取組を行っていく必要があります。

③ 小6・中1かけはしプラン推進事業

【成果】

当初に比べ支援員は半減していますが、生活面や学習面でうまく適応できない児童生徒や保護者に対して、家庭訪問を行うなど、相談や登校への働きかけを行いました。

【課題】

不登校生の出現率が増加傾向であり、初期対応を重視した取組に力を入れていくとともに、支援員の配置方法等の見直しを行う必要があります。

④ 小・中一貫教育推進事業

【成果】

小・中学校で連携を図りながら、特に学習指導面、生徒指導面において充実した教育活動が行われるようにするために、研修会を開催したり、中学校区内の小・中学校が共同で年間の計画を立案したりして取り組んできました。

【課題】

今後は、中学校生活に適應できるように必要な事項を整理し、小・中学校で共通実践事項を定めて取り組む必要があります。

⑤ きずな・ふれあい集合学習推進事業

【成果】

小規模校(小学校)の児童が集まって、より大きな集団での学習等を体験し、交流を深め中学校へのスムーズな入学に成果を上げてきました。

【課題】

今後は、交流体験活動の内容を更に検討し、児童が多様な体験を行いながら、社会性を培っていくことができるようにしていく必要があります。

※「幼・小・中・高連携教育の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
幼小連携及び幼保小連携に対する取組度	70.0%	88.6%	91.4%	92.0%	95.0%	90.0%
小中連携及び小中高連携に対する取組度	70.0%	100%	100%	100%	100%	90.0%
指標の算出方法	市立幼稚園及び小・中学校、国分中央高等学校で実施する学校評価（自己評価、学校関係者評価等）を基に算出					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>幼小連携及び幼保小連携に対する取組度については、上昇傾向にあり、目標値を上回っています。</p> <p>その要因として、それぞれの校種間の連携の視点について明確に示し、計画的に連携が推進されるようにしてきたことが考えられます。</p> <p>今後は、取組の充実に向けて、連携の目的を焦点化していく必要があります。</p>						

2 青少年の健全育成

「道義高揚・豊かな心推進」宣言都市として、地域ぐるみで心と体のバランスのとれた青少年の育成に努めます。

(1) 自然や地域の素材を活かした体験活動

① 「きりしまっ子リーダー塾」開催事業

【成果】

平成 23 年度から、きりしまっ子立志塾として実施し、市内の中学生を対象に、企業や行政のトップ、学識経験者等を講師に迎え、次代を担い世界へはばたき得るリーダーを育成するため 2 泊 3 日の集団宿泊学習を実施し、将来に向かっての夢や希望と高い志を持つことができました。

【課題】

多くの参加者を得られるように、魅力あるプログラムを検討する必要があります。

② 「わんぱくきりしまっ子自然体験」事業

【成果】

普段の生活では、体験し難い様々な活動をとおして、多くの子どもたちが、自然の中で活動することの楽しさを感じました。また、新しい仲間を作り、友達の良さを再確認し、協力することの大切さなどを学びました。異年齢集団での生活体験をとおし、規則正しい生活を送ることの大切さや、周囲の人への感謝の気持ちを感じ、日常生活の便利さやありがたさを感じることができました。

【課題】

小学生の参加割合が多いため、リーダーとしての中学生の参加を増やすことが望まれます。

③ 「ふるさと発見」開催事業（青少年地域体験活動）

【成果】

豊かな自然環境や伝統行事、科学体験をとおして、自然を大切にする心や社会性、郷土愛などが育まれました。また、新しい仲間を作り、友達の良さを再確認し、協力することの大切さなどを学ぶことができました。

【課題】

更に各地区の自然や伝統文化、産業、施設等多彩な素材を掘り起し、地域の魅力を再発見できるような事業を展開していく必要があります。

④ 「きりしま子どもの森づくり」事業

【成果】

「きりしま 10 万本植林プロジェクト」に児童生徒の参加を促したことで、地球環境を守ることの大切さを意識し、自らその手立てを实践する機会を得られました。

【課題】

各小・中学校での環境学習を充実し、より多くの児童生徒に実践の場を与え続けて行く必要があります。

※「自然や地域の素材を活かした体験活動」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
各種事業に参加した児童生徒の満足度	88.0%	92.0%	93.0%	94.0%	92.9%	90.0%
指標の算出方法	事業終了後の参加者アンケートに基づき算出					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>各種事業に参加した児童生徒の満足度は、常に目標の90%を超えています。</p> <p>その要因として、本市にある自然や産業など多くの素材を活かして、魅力的な体験事業を企画実施できた結果と考えられます。</p> <p>今後についても豊かな自然や歴史、地域に伝わる文化や伝統行事、地場産業などを活かしながら、各事業を推進します。</p>						

(2) 地域ぐるみの青少年健全育成

① 校外生活指導連絡会運営支援事業

【成果】

基本的に年に3回の校外生活指導連絡協議会を行い、各学校や保護者・関係団体の共通理解を図り、各学校や関係者による生活指導の充実が図られました。また、平成25年度では、「家庭の日」、「青少年育成の日」の推進についてのチラシを作成し全家庭に配布しました。

【課題】

様々な娯楽施設が増加し、青少年を取り巻く環境は以前に比べ大きく変化しており、非行の未然防止のため、長期休業中の「生活のしおり」について共通理解を深める必要があります。

② 青少年育成センター運営事業

【成果】

平成22年度から国分、隼人地区以外にも補導員を新規配置し、青少年育成センター指導員と連携を図りながら青少年の非行防止に努めることができました。

【課題】

青少年育成センターの相談機能について、児童生徒を含む市民に積極的にPRしていく必要があります。

③ 霧島市子ども会育成指導事業

【成果】

子ども会を魅力ある組織としてアピールするために、新たに支部ごとに「おすすめ事業」を企画したり、新規会員を増やすために地区自治公民館連絡協議会との連携を強化しました。

【課題】

会員数の減少傾向に歯止めをかけるため、市内の子ども会組織の空白地区を把握し、受け皿を用意できるよう関係者へ働きかけるとともに、長子が小学校へ入学する親に対して、子ども会加入を呼び掛けていく必要があります。

④ 家庭・地域・学校における道義高揚実践目標設定事業

【成果】

小・中学校では「一家庭一家訓運動」を実践し、親子で日常生活上の約束等を話し合う機会となりました。また、その実践をとおして地域全体の規範意識の高揚につながりました。

【課題】

学校主体ではなく、それぞれの地域が一体となった取組も展開できるよう、更に市民の意識を高めていく必要があります。

⑤ きりしまっ子あいさつ運動推進事業

【成果】

小・中学校では朝の登校時を中心に、地区自治公民館、児童生徒、PTA会員、学校関係者が一体となったあいさつ運動が活発に行われました。

【課題】

地区自治公民館と連携を図りながら、声かけ事案防止のためにも学校外活動中も、小中学生が地域の大人に自然にあいさつができ、また、大人の側も積極的に声かけができる雰囲気醸成する必要があります。

⑥ 霧島市青少年問題協議会運営事業

【成果】

青少年問題協議会を開催し、警察や県の青少年育成指導員から青少年を取り巻く状況を報告してもらい情報の共有が図られました。

【課題】

常に新しい情報を共有するため、協議会の開催回数を検討する必要があります。

⑦ 地域で育てる青少年健全育成事業

【成果】

全校区に青少年健全育成協議会が設置され、地域の特性を活かした校区内の環境づくり、青少年健全育成事業が展開されました。

【課題】

支部会議は事実上の校区取りまとめ組織であり、なくても事業推進に取り組めるため、支部の位置付けについて検討する必要があります。

⑧₁₈₎ ふるさと霧島カルタ活用事業**【成果】**

平成20年度にふるさと霧島カルタを作成し、学校、地区自治公民館に配布しました。

【課題】

小学校の郷土学習の中で取り組むことはできないかなど、行政が横断的に連携しながら、活用方策を検討する必要があります。

※「地域ぐるみの青少年健全育成」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
市内における青少年の補導件数	799件	522件	367件	369件	376件	500件 以下
指標の算出方法	地域安全白書と「安全のしるべ」より（霧島警察署、横川警察署の補導件数） (20歳未満の青少年を対象に年単位)					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
現状値約800件を500件以下に減らす目標を定めましたが、平成23年度以降370件前後を推移しています。						
校外生活指導連絡会の活動を始め、防犯パトロール隊が地域ごとに結成されるなど、市民総ぐるみの運動が効果を発揮したものと考えられます。						
今後については、学校・家庭・地域（青少年育成センター・各地区自治公民館防犯パトロール隊）がより一層連携し、青少年の健全育成に努めていく必要があります。						

(3) 家庭教育の推進

① 朝読み・夕読み活動推進事業

【成果】

朝読み・夕読み活動によって、子どもたちの活字離れを防ぐことだけでなく、地域全体で行うことにより体験と学びを支援する環境づくりにも役立っています。

【課題】

現在、5 地区自治公民館で取り組まれており、事業拡大を図るためには、各地区自治公民館の理解が不可欠です。

② 「きりしま親子 20 分間読書運動」推進事業

【成果】

市P連の努力目標に「子ども読書の日の活用・親子 20 分間読書の推進」が盛り込まれ、各PTA・各家庭における取組の推進を図りました。

【課題】

各PTAでの取組を強化し、各家庭で運動が広がるようにすることが必要です。また、広報活動を常時行う必要があります。

③ 家庭教育学級運営事業

【成果】

すべての学校で、家庭教育学級を開設し、各学級で年間8回～10回の講座を開き、保護者や大人が子どもを正しく導くための知識・態度・技術等を習得し、豊かな家庭生活の充実が図られました。

【課題】

同じ保護者の参加が多く、多くの保護者が参加できるように興味のある活動内容に工夫する必要があります。

※「家庭教育の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
各学校の家庭教育学級に参加している人の出席率	49.0%	42.0%	43.0%	52.0%	48.8%	60.0%
指標の算出方法	年度末実績報告書による					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>現状値から10%向上させ60%の出席率を目標としましたが、50%前後で推移しました。</p> <p>その要因として、保護者の就業率の増加や生活の多様化、父親の参加率が低いこと等が原因と思われます。</p> <p>今後については、男女共同参画の視点から家庭教育の在り方を見つめなおすプログラムの工夫を図っていきます。</p>						

3 スポーツ、文化芸術の振興

健康づくり、体力づくりのためのスポーツ振興と、豊かな感性の涵養に資するための文化芸術の振興に努めます。

(1) スポーツ、文化芸術活動の推進

① スポーツ活動チャレンジデー運営事業

【成果】

平成 25 年度から参加に向けて取り組みました。庁内推進会議（平成 26 年 3 月 27 日）、霧島市チャレンジデー実行委員会（同年 4 月 7 日）を立ち上げ、各種団体、地区自治公民館、事業所等に 5 月 28 日の参加 PR を行いました。

霧島市 人口128,126 人に対し、74,003 人が参加。参加率 57.8%

奥州市 人口123,668 人に対し、81,035 人が参加。参加率 65.5%

で、惜敗しました。

【課題】

前年度からの取組が遅く、市民への啓発が後手に回ったことから、最初の実行委員会の取組を早める必要があります。

②¹⁹⁾上野原縄文の森駅伝大会開催事業

【成果】

毎年 3 月の第 2 日曜日に開催しました。子どもや高齢者などの年齢層へのスポーツ環境づくりの場が提供でき、生涯スポーツ社会の実現を図りました。区間削減や、エリート部門の廃止など大会趣旨に則った取組を行いました。ゲストラランナーの定着、マラソンプームの後押しもあり毎年、大勢の関係者で賑わい、合わせて、上野原縄文の森をより多くの人にアピールできました。

【課題】

選手のタイムを測定する自動計測装置の導入により、更に多くの参加者に対応できることから、市内外に広く啓発する必要があります。

③ 健康生きがいつくり推進モデル事業

【成果】

本事業は、平成 21 年度に開始しており、平成 25 年度までに全 89 地区自治公民館が事業を開始しました。各地区自治公民館の特性やニーズにあった事業が展開され、地域における健康づくり、生きがいつくりの推進のための環境づくりが図られました。

平成 22 年度 31 地区自治公民館実施 331 回開催 延 16,107 名参加

平成 23 年度 52 地区自治公民館実施 545 回開催 延 25,999 名参加

平成 24 年度 70 地区自治公民館実施 718 回開催 延 37,187 名参加

平成 25 年度 89 地区自治公民館実施 901 回開催 延 47,569 名参加

【課題】

本事業は旗振り役の人材によるところが大きく、取組のバラツキがあります。また、補助金が年々削減されるなかで、自主財源での自主運営にどう取り組むかが課題であります。

④ 霧島市民音楽祭開催事業

【成果】

霧島国際音楽祭の盛り上がりを図る目的で始まった市民参加の音楽祭であり、市内で活動する隠れた音楽団体の堀り起こしができました。同時に市内の音楽愛好家と市民の交流が実現しました。

【課題】

霧島国際音楽祭を市民に周知するという所期の目的を達成することができたので、平成 26 年度から休止することになりました。

⑤ きりしま美術展開催事業

【成果】

年々応募数・応募者ともに増加してきており、第 10 回では全国公募や企業協賛を取り入れるなど徐々にではあるものの注目を集める美術展として定着してきています。巡回展を実施し、鑑賞者も増加してきました。

【課題】

今後は応募者を含めて、高校生・大学生など市民全体への広がりはどう図るかが課題です。

⑥ 自主文化事業

【成果】

国内で活躍している一流のアーティストによる優れた演奏や舞台芸術を取り入れた事業ができました。平成 25 年度からは、指定管理者への委託料に当該事業費を含める方式に改め、「霧島国際音楽祭 in 国分」「富良野グループ・マロース」などの催しが展開されました。

【課題】

各年代ごとの市民のニーズにあった公演を企画するとともに、様々な広報媒体を使って、市民に幅広く周知する必要があります。

※「スポーツ、文化芸術活動の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
スポーツに親しんでいる市民の割合	63.3%	61.1%	61.9%	66.3%	64.9%	70.0%
文化芸術に親しんでいる市民の割合	56.1%	56.8%	53.2%	59.4%	60.6%	60.0%
指標の算出方法	市民意識調査結果による					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>スポーツの推進については、市民一人一人のライフステージや興味・関心に対応したライフスタイルづくりを支援するため、体験・学習機会、健康・スポーツプログラムの提供によりスポーツ活動参加の促進が必要です。事業の推進にあたっては、各スポーツ団体、健康増進課等との連携を進め、市民のスポーツ活動を通じた体力増進・健康維持の機会の充実を図る必要があります。</p> <p>文化芸術に親しんでいる市民の割合は、60.6%と上昇傾向で、目標に到達しています。</p> <p>その要因として、きりしま美術展等の文化事業が定着してきたことが考えられます。</p> <p>今後、一人でも多くの市民が芸術文化に親しむきっかけを得られるよう、すべての事業を更に充実していく必要があります。</p>						

(2) 生涯スポーツ、文化芸術に親しむための環境づくり

① 体育施設整備事業

【成果】

各施設については、安全にスポーツができるよう適切な維持管理を行っていますが、建設後 20 年を超えた施設が全体の半数以上を占めています。施設整備にあたっては、利用者の安心・安全、緊急度等を十分勘案する中で、計画的に整備を進めてきました。施設環境とスポーツとを結びつけ、年間をとおしたキャンプ・スポーツ合宿が可能な、滞在型のスポーツ環境を活用し、各団体と連携を図り、スポーツと観光とが融合した事業を実施し市民の「観るスポーツ」を提供しました。

【課題】

平成 32 年に開催予定の鹿児島国体を見据えた施設整備について、今後取り組む必要があります。

② ²⁰⁾総合型地域スポーツクラブ普及・啓発事業

【成果】

市内には法人化した 2 つの総合型地域スポーツクラブが活動を行っており、ここ数年 1,500 名前後の会員数で推移しています。その事業として、ニュースポーツ事業、健康づくり事業、スポーツ大会、会員交流事業、文化活動事業等が実施されています。これまで、財政支援と自主運営に向けての財源確保のための「t o t o」の助成事業や、指定管理者制度への取組を指導してきました。

【課題】

総合型地域スポーツクラブは、「新しい公共」の担い手としての役割が期待されます。組織としての自立が求められる一方で市や体育協会、地元の競技団体等との密接な連携・協力が欠かせません。一方、地域全体をみると、総合型地域スポーツクラブが身近にある地域とそうでない地域があります。今後、広域的な視点に立って各種スポーツ・体力増進事業等に参加できる環境をつくる必要があります。

③ 市民会館等整備事業

【成果】

平成 12 年のリニューアルオープンから 10 年を経過した霧島市民会館は、舞台吊り物や空調設備・音響システムの改修などを行いました。また、その他のホールを兼ね備えた施設は、経年劣化による各箇所の整備に努めました。

【課題】

今後も、安全面に配慮して各種設備の定期点検を確実に行うなど、適切な管理運営に努める必要があります。

※「生涯スポーツ、文化芸術に親しむための環境づくり」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
スポーツを行う環境が整っていると考える市民の割合	42.9%	41.7%	39.6%	48.4%	42.6%	50.0%
文化芸術活動を行う環境が整っていると考えている市民の割合	24.2%	22.9%	22.3%	26.9%	27.0%	30.0%
指標の算出方法	市民意識調査結果による					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>スポーツを行う環境が整っていると考える市民の割合は、42.6%で横ばいに推移しています。</p> <p>その要因として、各施設については、安全にスポーツができるよう適切な維持管理を行っていますが、建設後 20 年を超えた施設が全体の半数以上を占めています。また、市民ニーズを満たす施設の規模や機能、トイレや更衣室などの付帯設備が今日の市民ニーズに合致していないことが考えられます。</p> <p>今後の施設整備にあたっては、利用者の安心・安全、緊急度等を十分勘案する中で、計画的にスポーツ施設の老朽化対策と施設の充実を図る必要があります。</p> <p>文化芸術活動を行う環境が整っていると考えている市民の割合は、27.0%と年々上昇傾向で、平成26年度の目標値に近づいてきている状況です。</p> <p>その要因として、霧島市民会館の整備を年次的に進めてきたことで舞台やホールが改善したことや音響や照明等をより効果的に演出するための「舞台講習会」を開催したことにより、市民の理解度が上昇してきたことが考えられます。</p> <p>今後、安全な施設（霧島市民会館）に努めるとともに、クオリティの高い音響・照明が提供できるよう整備を進めていくことが必要です。</p>						

(3) スポーツ、文化芸術団体の育成

① 体育指導委員活動事業

【成果】

体育指導委員²¹⁾(現スポーツ推進委員)は、地域単位で実施するスポーツイベントにおいて、企画・運営・指導・連絡調整の業務に従事し、市民へのスポーツ普及推進に尽力し、市民スポーツの普及・振興を図っています。出前講座、地域で開催される各種スポーツ大会の運営など、市職員の負担軽減が図られています。

【課題】

委員は経歴の長い人と、そうでない人、また、顕著な活動ができる人と、そうでない人のばらつきがあります。常に、委員としての資質向上のための研修会や講習会等を企画していますが、資質の均一化が課題となっています。

② スポーツ少年団育成事業

【成果】

スポーツ少年団は、スポーツをとおした青少年の健全育成を目的に、指導者・育成母集団の役割と活動に関する事業を実施しました。

【課題】

ここ数年、登録団数が80団前後、団員数1,400名で推移しています。また、最近の傾向として登録しないで活動している団体が散見されます。特に、総合型地域スポーツクラブや、体育協会との連携も含めて子どもの健全育成という観点からのスポーツ少年団の果たす役割を積極的に啓発する必要があります。

③ 体育協会支援事業

【成果】

体育協会は、30の競技団体を傘下に置き、市民の健康・体力向上及びスポーツ振興を目的とした事業を展開し、大会等を開催し競技力向上を目指しました。その結果、市のスポーツ振興の一翼を担いました。同協会は会員の数も多く、市のスポーツ振興を図る上できわめて重要な役割を果たしました。市民が気軽にスポーツをすることができる地域スポーツ社会の形成、指導者の育成及び競技スポーツの振興が図られました。

【課題】

各競技団体は一本化して数年が経過していますが、組織化された競技団体とその途上にある団体があります。引き続き、各競技団体の自立を促進し、当協会の組織化を図る必要があります。

④ 文化協会支援事業

【成果】

各文化協会支部の活動は、文化祭などの発表の場をとおして、自主的な活動を行ってきました。また、協会全体としての活動である霧島市芸術祭や、平成25年度から新たに企画した文化講演会など団体の活性化に向けた取組が展開されました。

【課題】

高齢化による会員の減少に歯止めがかからないことから、市民に対して文化協会の魅力を発信し、新たな会員の掘り起しに努める必要があります。

※「スポーツ、文化芸術団体の育成」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値					目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26	
スポーツ団体・組織の会員数	15,899 人	15,427 人	15,300 人	15,187 人	14,173 人	19,000 人	
文化芸術団体・組織の会員数	4,180人	3,794人	3,614人	3,414人	3,219人	4,300人	
指標の算出方法	年度末の団体・組織の会員数						
進行管理値の推移を踏まえた総括							
<p>スポーツ団体・組織の会員数は、年々減少傾向にあり、目標値を大きく下回りました。</p> <p>その要因として、散歩・ウォーキング・サイクリング・ランニング・水泳などの日常生活圏内で手軽に、一人でもできるスポーツ実践者が増加傾向にある一方、スポーツ団体・組織に加入せずに健康や体力を維持したいとする人が増えていることが考えられます。</p> <p>今後、目標達成に向けてスポーツ団体・組織が魅力ある活動を行うことにより、市民の関心を高め、スポーツに親しめる環境づくりや動機付けに一層の工夫・改善を行うことが必要です。</p> <p>文化芸術団体の会員数は年々減少し、平成26年度の目標値を大きく下回りました。</p> <p>その要因として、既存の組織に加入しないで独自に活動する団体が増えてきたことや団体の指導者や会員の高齢化による脱退等が考えられます。</p> <p>今後、文化芸術団体の存続のために、新たな会員の確保に向けた活動を模索していく必要があります。</p>							

4 文化財の保存・継承

古から連綿と受け継がれてきた貴重な文化財の保存・活用と、無形文化財の継承に努めます。

(1) 文化財を学ぶ環境づくり

① 文化財保護啓発事業

【成果】

平成 24 年 10 月に「縄文シティサミット in きりしま」を開催しました。また、広報誌に掲載した「郷土史への扉」では霧島市の歴史や文化財を紹介しました。

【課題】

市民全体に文化財愛護思想を普及する事業を継続して実施していく必要があります。

② シリーズ「霧島市を知る」ハンドブック作成事業

【成果】

霧島を知るシリーズとして、平成 22 年 10 月に「霧島市の田のかんさあ」を、平成 24 年 3 月に「霧島市の石仏」を刊行しました。また、平成 22 年 3 月に「歴史散歩～古からの足跡をたどる～」の第 3 版を刊行しました。

【課題】

より多くの市民にふるさとに残る貴重な文化財の数々を知ってもらうため、シリーズを更に充実させていく必要があります。

※「文化財を学ぶ環境づくり」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
シリーズ「霧島市を知る」ハンドブック等の販売冊数（累計）	実績無	243冊	195冊	392冊	486冊	500冊
指標の算出方法	年度内の販売冊数					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
文化財ハンドブックの資料の販売数が年々増加しており、平成26年度の目標値に近づいてきている状況です。						
その要因として、市民の歴史や文化財に対する関心が深まってきており、文化財を掲載している資料の要求が高くなってきたことが考えられます。						
今後、文化財の調査を継続して実施し、その成果の周知や新たなハンドブックの刊行、不足している資料の増刷を行うなど、更なる文化財の周知を図ることが必要です。						

(2) 郷土芸能保存団体への支援

① 郷土芸能保存団体支援事業

【成果】

郷土芸能保存会の活動を支援するため補助金を交付してきました。また、地域の行事や学校において、郷土芸能の発表の場を確保できるように呼びかけ、休止中の団体が活動を再開した事例もありました。

【課題】

保存会員の高齢化による後継者不足が課題です。

② 「霧島市郷土芸能祭」実施事業

【成果】

平成 22 年度から「霧島市郷土芸能祭」を開催しており、保存会に対して出演の機会の確保と市民への周知を図ってきました。発表の場ができたことにより、保存会の活性化が図られました。

【課題】

それぞれの地域で受け継がれている郷土芸能に、市民一人一人が興味・関心を寄せる必要があります。

※「郷土芸能保存団体への支援」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値					目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26	
郷土芸能に関わる人数（団体登録者）	2,664人	2,650人	2,556人	2,398人	2,582人	2,700人	
指標の算出方法	団体登録者数						
進行管理値の推移を踏まえた総括							
<p>郷土芸能に関わる人数は、年々減少の傾向にあることから、平成26年度の目標値を大きく下回りました。</p> <p>その要因として、郷土芸能保存会構成員の高齢化による保存会員の脱会や保存会の活動停止（休止も含む）が考えられます。</p> <p>今後、郷土芸能保存会への活動支援や出演の場を積極的に提供し、更には保存会同士の交流や研修などを行うための組織化を進めることにより、保存会の活性化を図ることが必要です。</p>							

(3) 文化財の保存・整備

① 文化財整備事業

【成果】

文化財を後世に遺すため、霧島神宮（国指定）や鹿児島神宮、旧田中家別邸（県指定）の修復を行いました。また、福山のイチョウや高座神社にあるイチイガシ（県指定）の養生を実施しました。さらに、大隅国建国 1300 年記念に併せて、大隅国分寺跡（国史跡）やこがの杜の整備を実施しました。

【課題】

年次計画に基づき、有形文化財の修復や老木などの天然記念物の養生を実施していく必要があります。

② ²²⁾真米甌穴群（まごめおうけつぐん）調査委託事業

【成果】

平成 23 年度に真米甌穴群を含めた天降川中流域の現地調査を実施し報告書を作成しました。その成果として、平成 25 年 3 月に「天降川流域の火砕流堆積物」が国の天然記念物に指定されました。

【課題】

適切な保存と活用を図っていく必要があります。

③ 文化財調査事業

【成果】

平成 23 年度に市内の石仏の調査を実施し、その成果である「霧島市の石仏」を刊行しました。また、山ヶ野金山の現地調査を実施し報告書を作成しました。

【課題】

今後、調査すべき文化財が数多く存在しているため、年次的に調査を実施するとともに、調査を外部に委託（史談会など）する必要があります。

※「文化財の保存・整備」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
整備する文化財の数（累計）	237件	278件	292件	289件	291件	363件
指標の算出方法	整備した文化財の数					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>霧島市内にある文化財を整備した数は、年度ごとの増減はあるものの平成26年度の目標値を大きく下回っています。</p> <p>その要因として、環境の整備や修復・修繕・養生などを年次的に進めてきたものの、当初計画通りの文化財調査や文化財の整備を行っていないことが考えられます。</p> <p>今後、平成25年10月に国指定史跡となりました「大隅正八幡宮境内及び社家跡」の保存管理計画を策定し、他の文化財と共に年次的に整備を進めていく必要があります。</p>						

(4) 文化財の活用

① 市内史跡めぐり開催事業

【成果】

毎年、霧島市の文化財をめぐる「きりしま歴史散歩」を年 6～7 回実施しました。特に平成 25 年度は、大隅国建国 1300 年記念事業の一環として大隅国に関係のある文化財をめぐり、多くの市民の皆様に参加していただきました。

【課題】

市民のニーズに沿ったコースを設定するなど、参加者が興味を持つ史跡めぐりコースを企画することが必要です。

② 「大隅国（おおすみのくに）建国 1300 周年」記念事業

【成果】

平成 23 年度から大隅国建国 1300 年を記念した事業に取り組みました。事業内容は、連続講演会（4回）、シンポジウム、隼人舞の共演、郷土芸能の祭典、市民参加型ミュージカル「大隅浪漫～1300年の時空を超えて～」などを実施し、黎明館との合同巡回企画展「大隅国建国と大隅正八幡宮の至宝」を開催しました。結果として、総勢10,769人の方々が参加されました。

③ 文化財体験学習事業

【成果】

毎年、文化財少年団を結成して発掘調査の体験や年中行事である灯ろうのタベ、浜下りなどに参加しました。また、体験学習事業として、親子で門松を作ったり、和紙づくりなどを実施しました。

【課題】

今後も、青少年が歴史や郷土に関心を持ちつつ、参加しやすい内容にする必要があります。

※「文化財の活用」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値					目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26	
郷土の歴史を学んだ市民の数	9,254人	10,239 人	10,499 人	10,238 人	10,906 人	10,400 人	
指標の算出方法	郷土館入館者数、各種イベント参加者数						
進行管理値の推移を踏まえた総括							
郷土の歴史を学んだ市民の数は、年々増加の傾向であり、平成26年度の目標値を上回ることができました。							
その要因として、市民のニーズに即した史跡めぐりや体験学習を実施したこと、また、平成25年の大隅国建国1300年記念事業では、年間を通して連続講演会やシンポジウム、隼人舞の共演、郷土芸能の祭典、ミュージカル、黎明館との合同巡回企画展などを開催し、郷土の歴史や文化に関心を持つ市民が多くなってきたことが考えられます。							
今後とも、市民が多くの文化財に直接触れる機会を増やし、魅力ある事業を開催することが必要です。							

5 学習機会の充実

市民の学習機会の充実のため、生涯学習社会の構築と、図書館、メディアセンターの機能強化に努めます。

(1) 学習環境づくり

① 各地区公民館管理運営事業

【成果】

年次的に施設や設備の修繕・改修を実施し、市民の学習しやすい環境づくりを行いました。管理運営については、公民館主事に対し課内での研修を実施したほか県等の研修会に参加し、資質の向上を図りました。

【課題】

施設や設備は年々老朽化が進み、それに伴う修繕や改修工事の箇所が増加しています。地域によって生涯学習活動に温度差があり公民館主事が配置されていない公民館があります。

② 生涯学習センター機能開設事業

【成果】

霧島市生涯学習推進計画において、市民の多様なニーズに応えられるように、NPO法人や指定管理者等の民間事業者との連携をより一層図っていくことを決めました。

【課題】

本計画の推進のため、より一層の連携を構築しながら、生涯学習活動の充実を図っていく必要があります。

③ 図書館運営事業

【成果】

多種多様な図書資料等の収集・整理・保存や幅広い年齢層の市民に応じた資料の提供及び図書館施設の維持管理を行い、利用しやすい図書館（室）づくりに努めました。また、平成 25 年度には隼人図書館の空調設備改修工事及び駐車場整備工事を行いました。

【課題】

電算システムが更新時期を迎えることから内容の検討が必要です。また、入館者数が減少傾向にあることから、情報提供の充実を図る必要があります。

④ 移動図書館運営事業

【成果】

図書館から遠隔地にある地域・集落、住宅団地、小学校等に移動図書館車での巡回サービスを 82 箇所、配本所で 27 箇所を行い、市内全域での学習環境づくりの充実に努めました。また、平成 24 年度に国分図書館の移動図書館車の更新を行いました。

【課題】

内容充実のためには、遠隔地への巡回場所の検討が必要です。

※「学習環境づくり」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
住んでいる地域の学習を行う環境が整っていると考えている市民の割合	31.2%	28.7%	27.6%	29.2%	27.2%	35.0%
指標の算出方法	市民意識調査結果による					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>進行管理値は、学習環境が整っていないと考えている市民の割合をいずれの年度も4.0ポイントから11.5ポイント上回ってはいますが、どちらとも言えないと答えた市民の割合が28.5%から29.8%となっています。</p> <p>その要因として、公民館講座などの学ぶ機会があることは知っているが、詳しく伝わっていないことが考えられます。</p> <p>そのため、公民館講座の開設場所や講座の内容について、これまでのチラシ配布やホームページ等による周知に加えて、さらに、報道等を通じて周知を図ることで改善が期待できると考えます。また、各図書館（室）・移動図書館において図書資料の充実や利用しやすい環境の整備が必要です。</p>						

(2) 成人教育の推進

① 23) 公民館定期・24) 短期講座開設事業

【成果】

受講生にアンケートを取りながら学習ニーズの把握を行いました。短期講座においては、市民の学習意欲を喚起するため大隅国建国 1300 年にちなんだ講座等を設けた結果、男性の応募が増加しました。

【課題】

地区間で講座の数に差があります。

② 「まなびフェスタ」開催事業

【成果】

毎年 2 月に隼人農村環境改善センター及び隼人体育館で、講座で学んだ成果の発表や市民相互の交流ができる場を提供しました。

【課題】

発表及び出演希望団体の増加に伴い、施設の展示スペースや発表の時間配分に余裕がなくなりつつあります。

③ 「ニューライフカレッジ霧島」開催事業

【成果】

毎年、メインテーマを決定し、そのテーマに沿った講座（1 回あたり 2 時間）を 10 回開催しました。平成 25 年度は、「世代継承と交流を考える～いま地域で伝えたいこと、遺したい物」というテーマで実施しました。地域の魅力を知り、ふるさと霧島の良さを再確認できました。

【課題】

志学館大学・鹿児島工業高等専門学校と協議するとともに市民のニーズに沿ったプログラムの検討を行う必要があります。

④ 学習機会・情報提供事業

【成果】

市ホームページ、広報誌及びチラシ配布により、市、地区、指定管理者が行う学習情報の提供を行いました。平成 25 年度からは情報誌「みやま」と公民館講座募集案内を統合し、写真などを掲載して紙面を充実させました。

【課題】

「霧島アカデミー」の設置構想に合わせて情報の一元化を図り、学習情報の啓発・広報を行う必要があります。

⑤ 25) ボランティアセンター運営事業

【成果】

平成 25 年度から名称を生涯学習ボランティアバンク運営事業に変更しました。平成 25 年度は、障がい者施設からの依頼が多くなり、対応する研修内容を設定したことにより、障がい者施設での活動参加者が増え、PTA、地域子ども会、家庭教育学級からの依頼が増えました。書道や裁縫指導など学校応援団としての活動機会も増えてきています。

【課題】

活動意欲はあっても、ジャンルによっては利用者がなく、活動できない登録者もいることから、具体的に提供できるボランティア内容等を市民に PR する必要があります。

※「成人教育の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
学習活動を行わない理由として自身のテーマに沿った学習機会がないことをあげている市民の割合	14.8%	未把握	15.1%	16.3%	14.3%	12.0%
指標の算出方法	市民意識調査結果による					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>目標値に近づきつつありますが、特に20歳代が各年度で20.7%から25.0%と高い数値が見られます。</p> <p>その要因として、比較的に年配向けの講座が多いことが考えられます。</p> <p>今後、若い世代向けの講座を開設することで改善が期待できます。</p>						

(3) 人権教育の推進

① 人権セミナーきりしま開催事業

【成果】

生涯学習課では、平成 23 年度まで、「人権セミナーきりしま」として実施しました。平成 24 年度から市民課主催の「人権フェスタ」に統合されて実施し、人権問題についての学習機会を提供することにより、人権意識の向上が図られました。

② 子ども人権セミナー開催事業

【成果】

「子ども人権セミナー」は、「いじめ問題」をテーマに、平成 23 年度から 3 年計画で市内のすべての中学校において開催し、「いじめ問題」の講演をとおしてお互いの個性を尊重することにより、自他の大切さを認め合う生徒の育成を図りました。

【課題】

親子で共に学べる機会となるように、日程を工夫するなど、より多くの保護者に呼びかける必要があります。

※「人権教育の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値				目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26
人権に関する学習会や講演会に参加したことがある市民の割合	8.6%	7.9%	9.7%	10.9%	9.4%	10.0%
指標の算出方法	市民意識調査結果による					
進行管理値の推移を踏まえた総括						
<p>現状値から1.4%向上させ10%を目標値としましたが、目標値に近く、ほぼ達成できました。</p> <p>その要因として、あらゆる世代に対応した、それぞれの人権についての学習機会を提供できたことが考えられます。</p> <p>今後については、幅広い年代層の市民を対象に、身近に感じられる内容について学習の提供を行っていきます。</p>						

(4) 本からはじまる学習活動の推進

① 図書館読書推進事業

【成果】

各図書館（室）や小・中学校、幼稚園、保育園でのおはなし会や緑陰読書のほか、おはなし王国等の読書まつりなどを開催し、読書の推進を図りました。

【課題】

おはなし会等の開催には読み聞かせボランティアの協力が必要であり、今後もボランティア団体との連携が必要です。

② ²⁶⁾ブックスタート事業

【成果】

毎月実施される乳児健診時において、ブックスタート活動を行うことにより乳幼児期からの読み聞かせが赤ちゃんの言葉と心を育むためには大切なことであることが浸透しつつあります。

【課題】

事業実施時におけるスタッフの確保に苦慮している状態であり、ボランティアの養成が必要です。

③ 郷土資料収集事業

【成果】

霧島市に関連する資料や鹿児島県が輩出した人物等に関する書籍資料や地図、風土に関連する冊子等の収集・整理・保存を行いました。

【課題】

継続して、郷土に関する資料の収集を進めていく必要があります。

※「本からはじまる学習活動の推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値					目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26	
図書館（室）の利用者数及び各種読書行事への参加者数（延べ）	281,861 人	291,970 人	288,645 人	271,483 人	266,054 人	300,000 人	
指標の算出方法	図書館・図書室の入館者、おはなし会等への参加者数						
進行管理値の推移を踏まえた総括							
<p>おはなし会等への参加者数はほぼ横ばいです。また、図書館ホームページの検索数は増大しているものの、図書館（室）の入館者は年々減少傾向にあります。</p> <p>その要因として、インターネットなど新たなメディアの発達により、様々な情報の取得が可能になってきていることが考えられます。</p> <p>今後は、気軽に利用しやすい図書館（室）づくりを進めるため、環境整備や情報発信等を充実させていく必要があります。</p>							

(5) 電子情報等の利活用推進

① 視聴覚ライブラリー事業

【成果】

学校現場等のニーズを踏まえ学校教育、社会教育等の学習で利用できる視聴覚教材や機材の整備に努め、その貸出を積極的に行い、わかりやすい学習の支援ができました。視聴覚教材が16mmフィルム・VHSからDVDへと移り変わる中、新教材はDVDを中心に整備を進めることができました。

【課題】

視聴覚教材の貸出は年々減少していますが、映像教材をとおした分かりやすい学習機会の提供や著作権、上映権等に適切に対処するためにも、今後も教材の整備を続ける必要があります。また、保有する機材の管理を徹底するとともに、新しい機材も整備する必要があります。

② メディアセンター管理運営・研修事業

【成果】

市民ニーズを基に講座の内容や回数、開催時期等について工夫改善し、市民のメディアを利用した学習の支援を行うことができました。また、家庭教育学級等により、情報モラルについても保護者、児童生徒向けの講座を実施することができました。

【課題】

情報機器が飛躍的に発達し、多種多様な機器が登場し始めました。これらの新しい機器をより便利に、より安全に使えるようになるように調査・研究を行い、さらに、講座の工夫改善を行っていく必要があります。

※ 「電子情報等の利活用推進」の達成状況

成果指標（指標設定の考え方）	現状値	進行管理値					目標値
	H20	H22	H23	H24	H25	H26	
電子情報の学習に取り組んだり、視聴覚機材等の利用を行った市民の数（延べ）	30,581 人	31,793 人	30,608 人	30,349 人	31,242 人	32,000 人	
指標の算出方法	メディアセンターの利用者数、視聴覚教材・機材の利用者数						
進行管理値の推移を踏まえた総括							
<p>メディアセンターの利用者数、視聴覚教材・機材の利用者数は、ここ数年31,000人前後で推移し、目標値に若干届かない状況にあります。</p> <p>その要因として、新しい機器の登場によって、映像や音楽を気軽に視聴できるようになり、開放コーナーの利用と視聴覚教材の貸出が徐々に減少していることが考えられます。</p> <p>今後は、開放コーナーの利用増や視聴覚教材の貸出増に向けて、市民のニーズを把握し、映像・音楽の整備を行ったり、各種総会や広報誌、FM放送等を活用した広報活動を充実させ、講座やなつかしの映画を観る会等の案内だけでなく、視聴覚教材・機材等の活用方法もお知らせしたりして、より多くの市民が映像教材を使って、わかりやすく楽しく学習できるよう支援していきます。</p>							